

## 私大助成国会請願行動を実施しました！

日本私大教連は11月1日（木）、2018年度の私大助成国会請願行動を実施しました。日本私大教連役員と各地区私大教連から参集した教職員、学生1名を含む計33名が参加しました。

今回の行動も、院内集会と国会議員要請行動の二本立てで行われました。衆議院第2議員会館内で開催された院内集会には、衆議院議員の山本和嘉子議員（立憲民主）、同じく畑野君枝議員（共産）、吉川はじめ議員（社民）、参議院議員の吉良よし子議員（共産）が駆け付け、激励の挨拶を行いました。各議員はそれぞれ私大助成の額があまりにも低いことや、重点配分が進んでいるといった問題、奨学金制度が不十分かつ多くの問題を内包していることなど、現状の政策を批判し、それらの問題を改善すべく国会内外で奮闘する決意を述べました。また議員代理として3名の政策秘書が出席しました。

ついで今年度の私大助成国会請願署名の請願趣旨・請願事項について、説明資料にもとづきあらためて学習を行った後、意見交換を行いました。東海地区から参加した教員は、ゼミ生である留学生の窮状を紹介し、グローバル化が叫ばれている中でも留学生への支援は盲点になっており、奨学金制度が非常に不十分である実態を指摘しました。北海道地区から参加した教員は、大学内の私大助成署名運動の事務局を



（院内集会の様子。主催者挨拶する丹羽委員長）

担ってきた立場から、父母からのカンパの減少などにより財政的に厳しい状況にあっても、運動の重要性がいつそう高まっているとの認識から活動の維持・前進のために奮闘していることが紹介されました。京滋から参加した龍谷大学4回生の学生は、自身も奨学金を借りており返済額は300万円から400万円になる見込みであること、3回生になるとゼミ活動などでアルバイトをする時間がなく無収入の月もあり生活に苦労したこと、アルバイトをしていた学習塾で家計の事情により私立大学への進学を諦めた生徒が数人いたことなど自身の経験を語り、学費引き下げや給付型奨学金の拡充など負担軽減の必要性を訴えました。

午後には参加者は9グループに分かれ、衆参文科委員会所属議員60名、各地区私大教連の地元選出議員53名、計113名の国会議員に要請を行いました。その内容は、第一に今年度の

私大助成国会請願署名を国会に提出する「紹介議員」になってもらうこと、第二に、政府が現在進めている私立大学等経常費補助（私大助成）の制度改悪や「高等教育無償化」政策における対象校選別を撤回させるために国会審議等で取り上げてもらうことの2点です。

今回の国会請願行動の結果、11月13日現在、以下20名の国会議員に「紹介」を応諾していただいています。

**【衆議院】11名**

（立憲民主）大河原雅子議員・山本和嘉子議員・佐々木隆博議員・池田真紀議員／  
（国民民主）古川元久議員／（共産）畑野君枝議員・本村伸子議員・宮本岳志議員・穀田恵二議員／（自由）日吉雄太議員／（社民）吉川はじめ議員

**【参議院】9名**

（立憲民主）小川勝也議員／（国民民主）大島九州男議員・徳永エリ議員／  
（共産）吉良よし子議員・紙智子議員・井上哲士議員・市田忠義議員・倉林明子議員／  
（自由）森ゆうこ議員

◆院内集会で挨拶された国会議員



吉良よし子参議院議員(共産)



畑野君枝衆議院議員(共産)



山本和嘉子衆議院議員(立憲民主)



吉川はじめ衆議院議員(社民)